

八幡平いにしえの宝

(市内にある指定文化財を紹介します)



昭和40年代後半頃撮影



現在の大揚沼(6月21日撮影)

おおあげぬま

大揚沼のモリアオガエル

およびその繁殖地

所在地：松川国有林内

指定年月日：昭和47年12月8日(国)

モリアオガエル^(注1)は夜行性で、ふだん森の中で生活していますが、繁殖期には池や沼の周りに集まります。産卵直前木に登ったメス1匹とオス数匹がグループになり、産卵行動を行い、卵塊^(注2)を作ります。卵塊の中の受精卵は、1～2週間で孵化し、雨で溶け崩れる泡の塊と一緒に下の水面に落下して、約1カ月水中でオタマジャクシの生活をします。

この沼は、北又川の谷の北側、標高1,100[㍎]の山腹にあり、ブナやヤチダモ、ダケカンバ、オオシラビソなどの高木に囲まれています。指定当時、沼の広さは約1.7[㍎]、周囲約600[㍎]にわたる沼岸のほとんど全域にモリアオガエルの繁殖が見られ、岩手県で最大の本種の繁殖地として貴重であるとされていました。繁殖期である今年6月下旬に現地確認を行ったときは、大揚沼では卵塊を確認できませんでした。近くの小さな沼地で、水面にせり出した枝先に数個の卵塊が垂れ下がっていました。

現在沼の縁にはミズバショウ、その内側にミツガシワがそれぞれ大きな集団で生えていますが、沼の中心に向け、さらに広がると予想されます。

(文・八幡平市文化財保護審議会委員 八幡輝夫)

(注1) 本州に分布する日本固有種。体長平均雄57[㍎]、雌72[㍎]、背中側の地色は緑色、指先に吸盤がある。産卵は沼、水田、水溜りの水面にせり出した枝先、まれにふちの草地で行われる。

(注2) 産卵、受精時に分泌される粘液を雌と数匹の雄が足でかき回し、泡の塊をつくる。表面は乾燥して紙のようなシート状になり、中の乾燥を防ぐ。大きさ10[㍎]から15[㍎]。

《参考文献》 瀬川経郎(1971)新しいわて風土記(熊谷印刷出版部)、国指定文化財等データベース(Web)

編集後記

表紙の新成人の笑顔のまぶしいこと！私もお盆中に2回目の成人式をしました。25年ぶりに再会した同級生に、懇親会の終盤で「ところで、お前誰だっけ？」「えっ！」。こんなこともありましたが、とても楽しい時間でした。一方で、家庭や仕事、地域のことでも加できない人もいて、社会での役割が重なる年代なのだと感じました。新成人の皆さん、20年後は皆さんがその役割を担っているはず。期待しています！（齋藤）

この編集後記を書いて8月28日、サッカー天皇杯の岩手県代表を決める県サッカー選手権の決勝が行われ、アンソメット岩手八幡平は惜しくも準優勝に終わりました。アンソメットの戦いについては来月号でお伝えします。インターハイの取材を通して、まさにたくさんの人がいると活気が生まれるというのを改めて実感しました。今回のインターハイでも多くの人と出会いました。これは私の一生の宝物です。(北口)